# Probabilistic aspects of character sums Lecture 1: Classics

Adam J Harper University of Warwick

SSANT Paris, June 2021

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三 のへぐ

## Plan of the talk:

- Introduction to character sums
- Motivation
- Pólya–Vinogradov inequality

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三三 - のへぐ

Preview of future lectures

## Introduction

**Throughout these lectures:** Let *r* be a large prime, and  $\chi$  a Dirichlet character mod *r*.

In other words:

$$\blacktriangleright \chi: \mathbb{N} \to \mathbb{C};$$

•  $\chi(n) = 0$  if and only if r|n;

- $\chi$  is *periodic* mod *r*, i.e.  $\chi(n+r) = \chi(n)$  for all *n*;
- $\chi$  is totally multiplicative, i.e.  $\chi(nm) = \chi(n)\chi(m)$  for all n, m.

There are  $\phi(r) = r - 1$  such functions  $\chi$ , including the principal character  $\chi_0(n) = \mathbf{1}_{(n,r)=1}$  and the Legendre symbol  $\binom{n}{r}$ .

We always have  $\chi(1) = 1$ , and  $|\chi(n)| \in \{0, 1\}$ .

Dirichlet characters have two important orthogonality properties:

▶  $\frac{1}{r-1}\sum_{n=1}^{r}\chi(n) = \mathbf{1}_{\chi=\chi_0}$ . (This is fairly easy to prove, by multiplying LHS by  $\chi(n)$  for some *n* with  $\chi(n) \neq 0, 1$ .)

 <sup>1</sup>/<sub>r-1</sub> Σ<sub>χ mod r</sub> χ(n) = 1<sub>n≡1 mod r</sub>.
 (This is a bit harder to prove, I don't know an argument that doesn't involve the explicit construction of the characters χ.)

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

Thanks to the second orthogonality property, we can use Dirichlet characters to detect behaviour in arithmetic progressions.

For example, if  $(a_n)$  is some complex sequence then

$$\sum_{\substack{n \le x, \\ n \equiv 1 \mod r}} a_n = \sum_{n \le x} a_n \frac{1}{r-1} \sum_{\chi \mod r} \chi(n)$$
$$= \frac{1}{r-1} \sum_{\chi \mod r} \sum_{n \le x} a_n \chi(n)$$
$$= \frac{1}{r-1} \sum_{n \le x} a_n \chi_0(n) + \frac{1}{r-1} \sum_{\substack{\chi \mod r, n \le x \\ \chi \neq \chi_0}} a_n \chi(n).$$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

## Some motivation

We might want to understand the distribution of primes in arithmetic progressions.

Thanks to the identity  $\Lambda(n) = -\sum_{d|n} \mu(d) \log d$  (or more sophisticated versions like Vaughan's Identity), this is more or less equivalent to investigating the *Möbius function*  $\mu(n)$  in arithmetic progressions.

### Recall:

$$\mu(n) := \begin{cases} 0 & \text{if } n \text{ has any repeated prime factors,} \\ (-1)^{\omega(n)} & \text{if } n \text{ has } \omega(n) \text{ prime factors, all distinct.} \end{cases}$$

For example,  $\mu(1) = \mu(6) = 1$ , and  $\mu(2) = \mu(3) = \mu(5) = -1$ , and  $\mu(4) = 0$ .

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

We have

$$\sum_{\substack{n\leq x,\\n\equiv 1 \bmod r}} \mu(n) = \frac{1}{r-1} \sum_{n\leq x} \mu(n)\chi_0(n) + \frac{1}{r-1} \sum_{\substack{\chi \bmod r, n\leq x\\\chi\neq\chi_0}} \sum_{n\leq x} \mu(n)\chi(n).$$

The Prime Number Theorem implies that

$$\sum_{n \le x} \mu(n) \chi_0(n) = \sum_{n \le x} \mu(n) - \sum_{\substack{n \le x, \\ r \mid n}} \mu(n) = o(x).$$

We expect that  $\sum_{n \leq x} \mu(n)\chi(n) = o(x)$  for all non-principal  $\chi$  as well (provided x isn't tiny compared with r).

"Can a Dirichlet character  $\chi(n)$  pretend to be  $\mu(n)$ ?" For real Dirichlet characters: closely connected to the Siegel zeros problem. Before grappling with  $\mu(n)$ , we might just try to understand the behaviour of  $\sum_{n \le x} \chi(n)$ . By periodicity mod r, we only need to investigate  $1 \le x \le r$ .

For the principal character  $\chi_0(n) = \mathbf{1}_{(n,r)=1}$ , this is an easy problem.

For  $\chi \neq \chi_0$ , we always have the trivial bound

$$|\sum_{n\leq x}\chi(n)|\leq \sum_{n\leq x}|\chi(n)|\leq x,$$

but we generally expect this to be far from the truth.

#### Define

 $n(r) := \min\{1 \le n \le r : n \text{ is a quadratic non-residue mod } r\},\$ 

the least quadratic non-residue mod r.

Conjecture 1 (Vinogradov) For any fixed  $\epsilon > 0$ , we have  $n(r) \ll_{\epsilon} r^{\epsilon}$ .

We expect (but cannot prove) that much more should be true:  $\sum_{n \leq r^{\epsilon}} \chi(n) = o(r^{\epsilon})$  uniformly for all non-principal characters  $\chi$  mod r (including  $\chi(n) = \binom{n}{r}$ ).

# Pólya–Vinogradov inequality

# Theorem 1 (Pólya–Vinogradov inequality, 1918) Uniformly for all large primes r, all $\chi \neq \chi_0 \mod r$ , and all x, we have

$$|\sum_{n\leq x}\chi(n)|\ll \sqrt{r}\log r.$$

This is a fundamental result, as is the method of proof.

The Pólya–Vinogradov inequality immediately implies that if  $\frac{x}{\sqrt{r}\log r} \to \infty$ , then  $\sum_{n \le x} \chi(n) = o(x)$ .

Our key tool in proving the Pólya–Vinogradov inequality, and an important tool in lectures 2 and 3, will be the *Pólya Fourier* expansion (*PFE*): for any parameter K, we have

$$\sum_{n \leq x} \chi(n) = \frac{\tau(\chi)}{2\pi i} \sum_{0 < |k| \leq K} \frac{\overline{\chi}(-k)}{k} (e(kx/r) - 1) + O(1 + \frac{r \log r}{K}),$$

where  $e(t) := e^{2\pi i t}$  is the complex exponential, and  $\tau(\chi) := \sum_{a=1}^{r} \chi(a) e(a/r)$  is the *Gauss sum* corresponding to  $\chi$ .

We will sketch the proof of the PFE (assuming a bit of standard Fourier analysis), and then deduce Theorem 1.

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

For a fixed non-principal character  $\chi \mod r$ , we (temporarily) define

$$S(t) = S_{\chi}(t) := \sum_{1 \le n \le tr} \chi(n), \quad 0 \le t \le 1.$$

We have S(0) = 0 (trivially, empty sum), and  $S(1) = \sum_{1 \le n \le r} \chi(n) = 0$  using one of the orthogonality properties.

Next we compute the Fourier coefficients of the function S(t) (thought of as a 1-periodic function on  $\mathbb{R}$ ):

$$\hat{S}(k) := \int_0^1 S(t) e(-kt) dt = \sum_{1 \leq n \leq r} \chi(n) \int_{n/r}^1 e(-kt) dt, \quad k \in \mathbb{Z}.$$

When k = 0, we obviously have  $\hat{S}(0) = \sum_{1 \le n \le r} \chi(n)(1 - \frac{n}{r})$ . Using the fact that  $\sum_{1 \le n \le r} \chi(n) = 0$ , we can simplify this:  $\hat{S}(0) = -\frac{1}{r} \sum_{1 \le n \le r} \chi(n)n$ .

When  $k \neq 0$ , we get

$$\hat{S}(k) = \sum_{1 \le n \le r} \chi(n) \left[ \frac{e(-kt)}{-2\pi i k} \right]_{n/r}^1 = \sum_{1 \le n \le r} \chi(n) \frac{e(-kn/r) - 1}{2\pi i k}.$$

Again, we can simplify this:

$$\hat{S}(k) = \frac{1}{2\pi i k} \sum_{1 \le n \le r} \chi(n) e(-kn/r).$$

Now we shall exploit the special structure of Dirichlet characters/residues mod r.

If k is coprime to r, then

$$\overline{\chi}(-k)\tau(\chi) = \overline{\chi}(-k)\sum_{a=1}^{r}\chi(a)e(a/r) = \sum_{a=1}^{r}\chi(-a/k)e(a/r)$$
$$= \sum_{a=1}^{r}\chi(a)e(-ak/r),$$

because replacing *a* by -ak just permutes the residue classes mod *r*. So we get

$$\hat{S}(k) = au(\chi) \frac{\overline{\chi}(-k)}{2\pi i k}.$$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

This is still true when r|k, because then both sides equal zero.

Finally, (a quantitative form of) Fourier inversion gives

$$S(t) = \frac{S(t+) + S(t-)}{2} + O(1) = \sum_{|k| \le K} \hat{S}(k)e(kt) + O(1 + \frac{r\log r}{K})$$
$$= -\frac{1}{r} \sum_{1 \le n \le r} \chi(n)n + \frac{\tau(\chi)}{2\pi i} \sum_{0 < |k| \le K} \frac{\overline{\chi}(-k)}{k}e(kt) + O(1 + \frac{r\log r}{K}).$$

(The r in the error term is a bound on the variation of S(t).)

Since S(0) = 0, we can get rid of the first sum by subtracting S(0) from both sides:

$$S(t) = \frac{\tau(\chi)}{2\pi i} \sum_{0 < |k| \le K} \frac{\overline{\chi}(-k)}{k} (e(kt) - 1) + O(1 + \frac{r \log r}{K}).$$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

Setting t = x/r yields the PFE.

### Lemma 1

For all primes r and all  $\chi \neq \chi_0 \mod r$ , we have  $|\tau(\chi)| = \sqrt{r}$ .

### Proof of Lemma 1.

The key point, as we already saw, is that

$$\overline{\chi}(n)\tau(\chi) = \overline{\chi}(n)\sum_{a=1}^{r}\chi(a)e(a/r) = \sum_{a=1}^{r}\chi(a)e(an/r)$$

for all *n* (LHS=RHS=0 if r|n). And  $|\overline{\chi}(n)| = 1$  for *n* coprime to *r*, so

$$(r-1)|\tau(\chi)|^2 = \sum_{n=1}^r |\sum_{a=1}^r \chi(a)e(an/r)|^2 = \sum_{a,b=1}^r \chi(a)\overline{\chi}(b)r\mathbf{1}_{a=b}.$$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ □ のQで

The RHS is equal to r(r-1).

### Proof of the Pólya–Vinogradov inequality.

We can choose K = r, say, in the PFE. Then simply applying the triangle inequality,

$$\begin{aligned} |\sum_{n \le x} \chi(n)| &= \frac{\sqrt{r}}{2\pi} |\sum_{0 < |k| \le r} \frac{\overline{\chi}(-k)}{k} (e(kx/r) - 1)| + O(1 + \log r) \\ &\le \frac{\sqrt{r}}{2\pi} \sum_{0 < |k| \le r} \frac{2}{|k|} + O(\log r) \\ &\ll \sqrt{r} \log r. \end{aligned}$$

▲□▶▲□▶▲≡▶▲≡▶ ≡ めぬる

## Further developments

- Burgess bound (1957, 1962): for  $\chi \neq \chi_0$  we have  $|\sum_{n \le x} \chi(n)| = o(x)$  provided  $x \ge r^{1/4+o(1)}$ .
- ► This directly implies that the least quadratic non-residue n(r) ≤ r<sup>1/4+o(1)</sup>.
- With some combinatorial trickery, one can in fact deduce the stronger (best known) result that n(r) ≤ r<sup>1/(4√e)+o(1)</sup>.

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

Better character sum estimates are possible for special non-prime moduli r (e.g. smooth/friable r).

 Assuming the Generalised Riemann Hypothesis is true, Granville and Soundararajan (2001) showed that
 |∑<sub>n≤x</sub> χ(n)| = o(x) provided log log r → ∞.
 (cf. Lecture 3)

### Key points to take away:

- The PFE encodes the periodicity of χ(n) mod r. We need to use it to understand the behaviour of χ(n) properly.
- We have  $(e(kx/r) 1) \approx \frac{2\pi i kx}{r}$  when  $|k| \leq r/x$ . So the PFE implies that

$$\sum_{n \le x} \chi(n) \approx \frac{\tau(\chi)}{2\pi i} \sum_{0 < |k| \le r/x} \frac{\overline{\chi}(-k)}{k} \frac{2\pi i kx}{r} + O(\log r) + \frac{\tau(\chi)}{2\pi i} \sum_{r/x < |k| \le r} \frac{\overline{\chi}(-k)}{k} (e(kx/r) - 1)$$
$$\approx \frac{\tau(\chi)x}{r} \sum_{0 < |k| \le r/x} \overline{\chi}(-k).$$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

► In particular,  $|\sum_{n \le x} \chi(n)| \approx \frac{x}{\sqrt{r}} |\sum_{k \le r/x} \chi(k)|$ .

So there is a "symmetry" between character sums up to x and up to r/x:

$$|\sum_{n\leq x}\chi(n)|\approx \frac{x}{\sqrt{r}}|\sum_{k\leq r/x}\chi(k)|,$$

at least for most  $\chi$  and/or most x.

- ► In particular,  $|\sum_{n \le x} \chi(n)| \approx \sqrt{x}$  is roughly equivalent to  $|\sum_{n \le r/x} \chi(n)| \approx \sqrt{r/x}$ .
- This symmetry is sometimes called the "Fourier flip", or a "reflection principle". It is also closely related to the functional equation of Dirichlet *L*-functions.

**Main Theme:** We will combine the PFE with a *random multiplicative function* model to understand various aspects of character sums.

• Lecture 2: distribution of  $\max_{1 \le x \le r} |\sum_{n \le x} \chi(n)|$  as  $\chi$  varies.

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

- Lecture 3: distribution of character sums over moving intervals.
- Lecture 4: distribution of  $\sum_{n \le x} \chi(n)$  as  $\chi$  varies.